

「今度の土曜日に山に行く。」と「今度の土曜日に山へ行く。」とでは、どう違うのか。「日本でただ一つの」と「日本にただ一つの」ではどうか。これらは、「助詞」の問題である。助詞は、日本語において、単語に付加し、自立語同士の関係を表したり、対象を表したりする。付属語であり、活用しない。俗に「てにをは」と呼ばれる。

この助詞の使い方が気になる。テレビなどを見ていると、特に民間放送では、助詞の使い方が明らかに間違っているケースが増えてきている。間違っているけど、意味は通じる。助詞は、付属語で活用しないため、あまり目立たない。ひらがな一文字が多い。

だが、それでいいのだろうか。「私は日本人です。」と「私が日本人です。」では、意味が違う。「私はピアノを弾きます。」と「私がピアノを弾きます。」では、明らかに意味が変わってくる。たぶん、多くの方は、ちょっと考えながら使い分けている。特に、書くときは、意識しているだろう。だが、話しているときは、むずかしい。前述のテレビの話は、話している場合である。

「コーヒーが飲みたい。」と「コーヒーを飲みたい。」は、どうだろう。もはや、あまり意識していない人が増えているのではなからうか。「コーヒーが飲みたい。」が正しい。ただし、「～と思う。」が続く場合は、「コーヒーを飲みたいと思う。」となる。「私は、車をほしい。」というような使い方が増えている。「私は、車がほしい。」である。「私は、車をほしいと思う。」となる。

書く場合でも、例えば、こんな例がある。「〇〇君に戻ってきてほしい。」を「〇〇君が戻ってきてほしい。」としたら、どうだろう。このレベルのことが増えてきている。どちらでも意味は通じる。

「コーヒーと紅茶、どちらになさいますか？」と聞かれたとする。「コーヒーをお願いします。」と答えてしまう人が多いのではなからうか。丁寧に答えたつもりで、とっさに出てしまう。しかし、「～で」というと、「～でいいよ」という投げやりな印象はないだろうか。これが、「コーヒーをお願いします。」だったら、どうだろう。気配りのある答え方になる。

「そのカフェで友人がいる。」「図書館でその本がある。」「お店でその洋服がある。」どれも不自然である。だが、意味は通じてしまう。このようなことが増えている。「が」と「は」の誤用も多い。「私が食事を終えると、ベランダに出て外の空気を吸った。」何となく通じてしまうが、これでは、外の空気を吸ったのが、私なのか、それとも別の誰なのかがわからない。「私は食事を終えると、ベランダに出て外の空気を吸った。」となれば、はっきりする。

こう考えると、話しながら正しく助詞を使うのは、そう簡単なことではないように思えてくる。たかがひらがな一文字だが、されどひらがな一文字である。「山に行く。」と「山へ行く。」とでは、そんなに意味は変わらないのだから、どちらでもいいのではないかという人もいるかもしれない。「に」は、目的地点を指す。「へ」は、方向を指す。「に」は、着いたときをイメージし、「へ」は、これから向かっていくイメージである。ニュアンスが変わってくる。日本語では、このニュアンスが大事だと思うのだがどうだろう。